



大阪金剛簾すだれ

富田林、河内長野で生産される「大阪金剛簾」。1985年に「大阪の伝統工芸品」に、1996年に経済産業大臣より「伝統的工芸品」に指定された、大阪の職人技と美を凝縮した逸品だ。



1 伝統的な大阪金剛簾。伐採、竹割り、ヒゴ作り、織り上げなど多くの工程があり、熟練の職人技で作られる 2 縁を縫い付ける「縁付け」 3 指定の幅に切る「幅切り」。鋭い切れ味の堺打ち刃物で特注した大ばさみで押し切りする 4 ショールームの現代的なすだれ 5 すだれの技術を生かした小物類 = トートバッグ小14800円・大16800円、ミニポーチ2800円、テーブルセンター小3000円・大3500円、ランチョンマット2000円(税別) 6 「すだれ資料館」予約制。土・日曜、祝日休館。観覧無料

◇すだれ資料館・井上スダレ(株)
河内長野市天野町1014-1
☎0721-53-1336

河内長野市の「すだれ資料館」。館内には、古い文献を元に復元した御簾や亀甲模様美しい亀甲すだれ、素材の竹、製造道具などがズラリ。すだれの歴史や種類、製法、南河内地域との関わりが分かりやすく展示されている。

源氏物語や枕草子にも登場し、貴人の姿を隠したり、疫病や寒さを遮ったりするために使われたすだれ。1700年頃、新堂村(現・富田林市若松町)に籠作りなどの技術が伝わり、後に京すだれの技法を取り入れて発展してきた。1948年には、河内長野で竹ヒゴを作る Cutter が考案され、大量生産が可能に。全盛期の1960年頃には、全国シェア75%を占めたという。

館を運営する「井上スダレ(株)」のショールームには、柿渋やベンガラで上品に着色されたものや、ヒゴをねじりながら織り上げたもの、極細の材料で繊細な表情を見せるものなど、様々な商品が並んでいた。

すだれと言えば神社仏閣、純和室と思っていたが、洋室や店舗にも使われているそう。伝統の技は進化し、今の暮らしに生かされている。

プレゼント

ランチョンマットを2枚セットにして2人に。35歳以上の応募要領で。17年8月末日必着。品名 = 本誌8月金剛すだれのランチョンマット

